**第24章災害及び事故**

**水稲被害**

　昭和60年における府下の水稲被害の概況は、被害面積１万1700ha、被害量5270 t 、被害率12.5％であった。  
　前年に比べ、被害面積で5370ha （前年比84.8％）、被害量で2510 t （同90. 9％）の大幅増加となった。特に、虫害被害量で1602 t （同170.8％）も増加したことが目立っている。

**労働災害**

　昭和60年の府下の労働災害による死傷者数は、死者が20人、負傷者（休業４日以上）が２万3386人で、合計２万3595人であった。これは、前年より741人減少したが、死者は46人増加した。  
　産業別にみると、製造業が9447人で全体の40.0％を占め、そのうち、金属精錬業・金属工業が4298人で最も多い。以下、建設業5234人（構成比22.2％）、陸上貨物取扱業2286人（同9.7％）の順となっている。

**火災**

　昭和60年の府下の火災件数は4795件で、前年に比べ230件（4.6％）の減少となったが、逆に損害額は17億8659万円（前年比19.4％）、り災世帯数は171世帯（同4.2％）の増加となった。  
　地域別では、大阪市地域が前年より119件（前年比7.2％）増の1770件、中河内地域が10件（同3.0％）増の341件となっているほかは、各地域とも前年より減少しており、中でも泉南地域の19.6％（91件）、三島地域の16.2％（82件）の減少が目立っている。  
　月別では、３月が473件（構成比9.9％）と最も多く、最も少ない10月の1.5倍となっている。  
　発火源別にみると、「火種（それ自身発火しているもの。たばこ、マッチ等）」が前年より164件（前年比7.1％）減少し、2135件となったが、全体の44.5％と依然高い割合を占めている。

**交通事故**

　昭和60年の全国の交通事故発生件数は、55万2788件（前年比6.6％増）、死者9261人（同0.0％減）、負傷者68万1346人（同5.7％増）であった。  
　都道府県別では、大阪府の４万7249件（構成比8.5%）が最も多く、以下、東京都３万5296件（同6.4％）、愛知県３万1342件（同5.7％）の順となっている。  
　一方、大阪府下における交通事故発生件数は、４万7249件（前年比8.6％増）で、死者は391人（同2.5％減）、負傷者は５万7673人（同7.7％増）となっており、死者は前年に引続き減少したが、他は再び増加に転じた。  
　事故発生の主原因者となった第一当事者別では、車両関係が４万6554件（構成比98.5％）と圧倒的多数を占めている。そのうち、普通乗用車の２万1206件（同44.9％）と普通貨物自動車の5982件（同12.7％）が多く、合わせて全体の約６割を占め、以下、軽貨物自動車5478件（同11.6％）、原付二輪車（50cc以下）4629件（同9.8％）の順となっている。  
　事故発生の形態を法令違反別にみると、車両関係４万6554件中、前方不注意8255件（構成比17.7％）、安全不確認6946件（同14.9％）、動静不注視3262件（同7.0%）、指定場所一時不停止等2941件（同6.3％）の順となっている。  
　一方、歩行者関係の事故は、第一当事者及び第二当事者合わせての発生件数が6470件で、死者116人、負傷者6684人となっており、横断中の事故が4509件と全体の69.7％を占めている。